

映画『劔岳 点の記』

## 測量会館で「木村大作監督を囲む会」を開催

# 「皆さんの映画です。 ぜひ応援してください!!」 木村大作監督

去る2月13日午後3時から東京・小石川の測量会館で「木村監督を囲む会」を開催しました。映画「劔岳 点の記」は、昨年秋に第一次ロケが終了し、全体の1/4を無事撮り終えたということです。この3月から第二次ロケ（春～夏）で本格的に柴崎測量官の測量に係わる撮影シーンに入って行く予定です。その前に木村監督のお話を聞く会を設け、監督の熱意をおうかがいするとともに、測量などに関する意見交換を行い、よりよい映画を作っていただくことを願って開催したものです。

この冬一番の寒い朝といわれた日でしたが、会場の講習会室には、始まる前から多数の関係者が詰めかけました。

はじめに、昨秋ロケで収録した映像を15分ほどにまとめたプロモーションビデオの上映がありました。劔岳周辺の素晴らしい自然の映像と、主演の浅野忠信さんと香川照之さん、そして監督・スタッフの人たちが山岳ロケに苦闘する撮影現場のリアルな映像に参集者は言葉もないほど惹きつけられていました。

この後監督に登場していただき、



測量会館1階にある『劔岳 点の記』コーナーに立つ木村監督

当協会の星埜副会長から「監督の思い入れを聞いて測量技術者人生の糧にしていきたい」との挨拶がありました。

司会の石田総務部長から来場者の紹介がありました。内訳は国土地理院関係者、測量関連団体、報道関係、本誌の編集委員・執筆関係者、出版社、東映の映画製作関係者・宣伝部など各方面からの参集者でした。これにTBSの番組「情熱大陸」のテレビクルーが木村監督の密着取材で、テレビカメラを終始回しているという活気のある雰囲気の中で開会になりました。

「木村監督と語る」は当協会の瀬戸島理事が質問し、木村監督にこ

の映画にかける意気込みと、思いの丈を語っていただくという形で進行しました。

監督の熱弁は、情熱の大きさ故か語り出したら止まるところを知らず、質問からはかけ離れることもしばしばでした。今回の撮影現場の話、これまで撮った映画の話、一緒に仕事をして大変尊敬しているという有名俳優さんのエピソードなど話題は縦横無尽にわたりました。

会場の聴衆は随所で大爆笑したり感心したりということで1時間半があつという間に過ぎてしまいました。（詳細は次号予定）

# 木村大作監督 大熱弁

測量会館で「木村大作監督を囲む会」を開催



質問する瀬戸島政博理事と木村大作監督(右)

そのあと、質疑応答に入り、国土地理院東北地方測量部長からは「この秋に仙台で地図展をやりますが、ここに〈劔岳 点の記〉コーナーを作ります。ぜひ浅野忠信さんの測量シーンの映像を流させてほしい」との要望や、測技協から「〈為〉という観点からのこの映画の位置づけを」といった質問が出るなど、聴衆との交流というこの「監督を囲む会」の目的は十分に達成されました。

監督は、「何のためにこの映画を作るのか。それは崇高な使命感を持って、黙々と仕事をする明治

の日本人の姿を描きたい。これを見て、今の日本人が感動しなくなっているのだったらこの日本はおしまいだ」「皆さんの仕事を借りて日本人の素晴らしさを表現していきたい」「われわれは自然の中で生かされているだけだ。険しい山の中で豆粒みたいな人間が80kgの荷物を背負って歩いている人間をみてほしい。そこから何かを感じてほしい」と熱く語られました。そして「今日は皆さん一人一人の顔をみて話していると、同志になれた気持ちです。皆さんの映画ですからぜひ応援してください」とメッセージがありました。

最後に小野専務理事から「木村監督にこの映画を撮ってもらってうれしい。まず家族に、そして各方面に広報を助け、応援していきたいと思います」とお礼の言葉で終了になりました。

同会場では、このあと缶ビールと簡単な乾きもので監督の熱弁を慰労する会ということになりました。監督の周りには、実際に基準点測量で苦勞した国土地理院のOBさんや建設関連紙の記者さんたちで人垣は絶えず、木村監督も測量人との交流に充実したひとときとなったように思われました。

(文 浦郷武夫、写真 小西賢二)